

不登校傾向にある子どもの実態調査

2018/12/12

メディア向け説明会

調査概要

調査目的

- 現中学生・中学卒業後～22歳の子どもたち本人を対象に
 - ① 顕在化していない「学校に馴染んでいない子ども」を「不登校傾向にある子ども」とし、そのボリュームを把握する
 - ② 子どもが学校に馴染まなくなる原因・背景を子どもの本音として集める

調査手法

- インターネットによる定量調査
- 事前調査5問／本調査12問／追跡調査4問



調査対象者

- | | | | | |
|---|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 男女（大人） ➤ 全国 ➤ 中学生程度（12歳～15歳）の子どもあり ➤ 親の状況を回答 | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 男女（子ども本人） ➤ 全国 ➤ ①中学生程度（12歳～15歳）
…6,500人（有効回答6,450人） | ➔ | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 男女（不登校又は不登校傾向にある子ども：1～5群） ➤ 全国 ➤ ①中学生程度（12歳～15歳）
…74人 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ②中学卒業後（15歳～22歳）
…13,500人（有効回答13,496人） | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ②中学卒業後（15歳～22歳）
…74人 | | |

- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は、全中学生約325万人の10.2%にあたる約33万人で、文部科学省が調査した不登校中学生の数の約3倍。約10人に1人が不登校傾向。

【6頁：本調査】

- 中学校に行きたくない理由について、身体的症状以外の要因では「授業がよくわからない」「良い成績がとれない」「テストを受けたくない」など、学習面での理由がみられた。

【10頁：本調査】

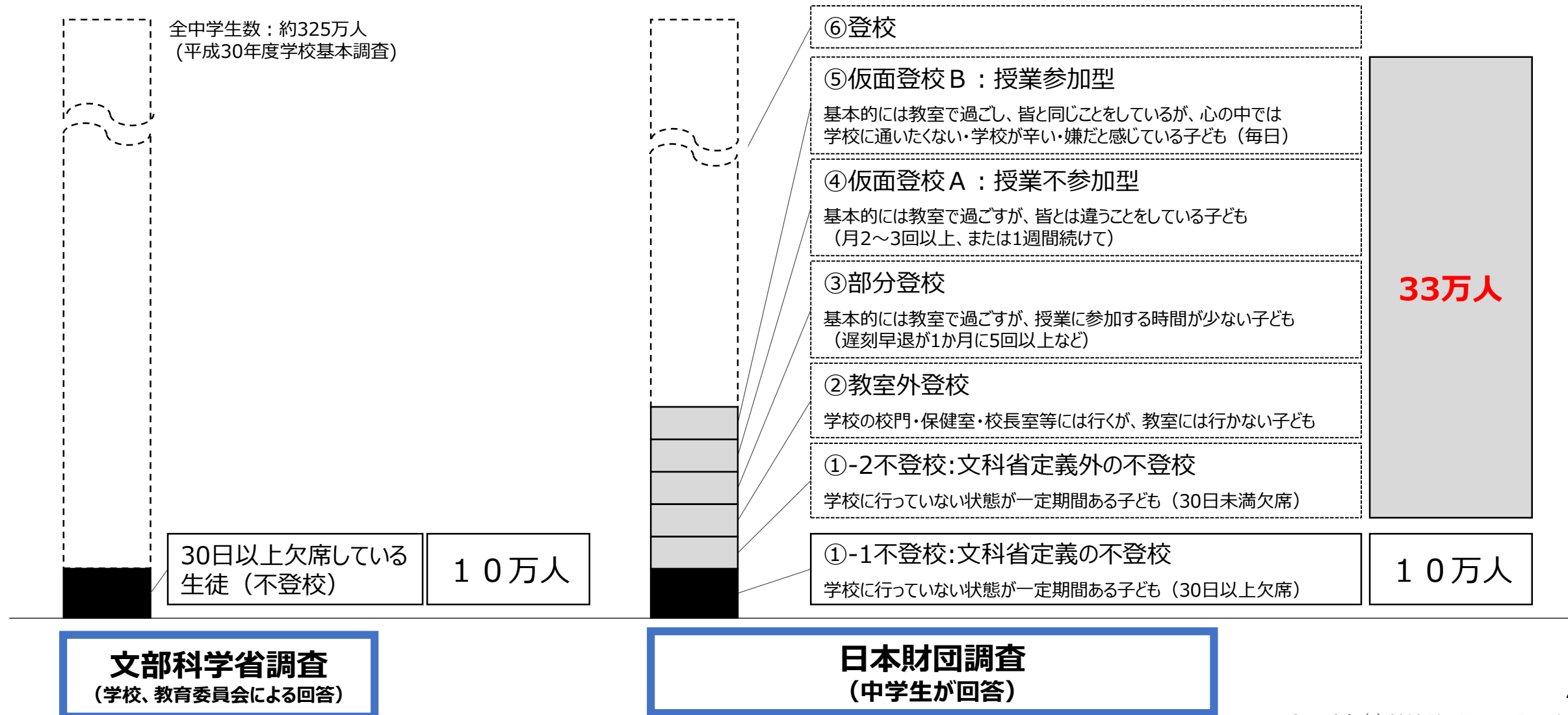
- 学びたいと思う環境は、「自分の好きなことを突き詰めることができる」場所、「自分の学習のペースにあった手助けがある」場所、「常に新しいことが学べる」場所など。

【12頁：追跡調査】

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

文部科学省調査（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）との違いイメージ

- 学校ではなく、子どもから実態を調査。
- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は約33万人と推計。

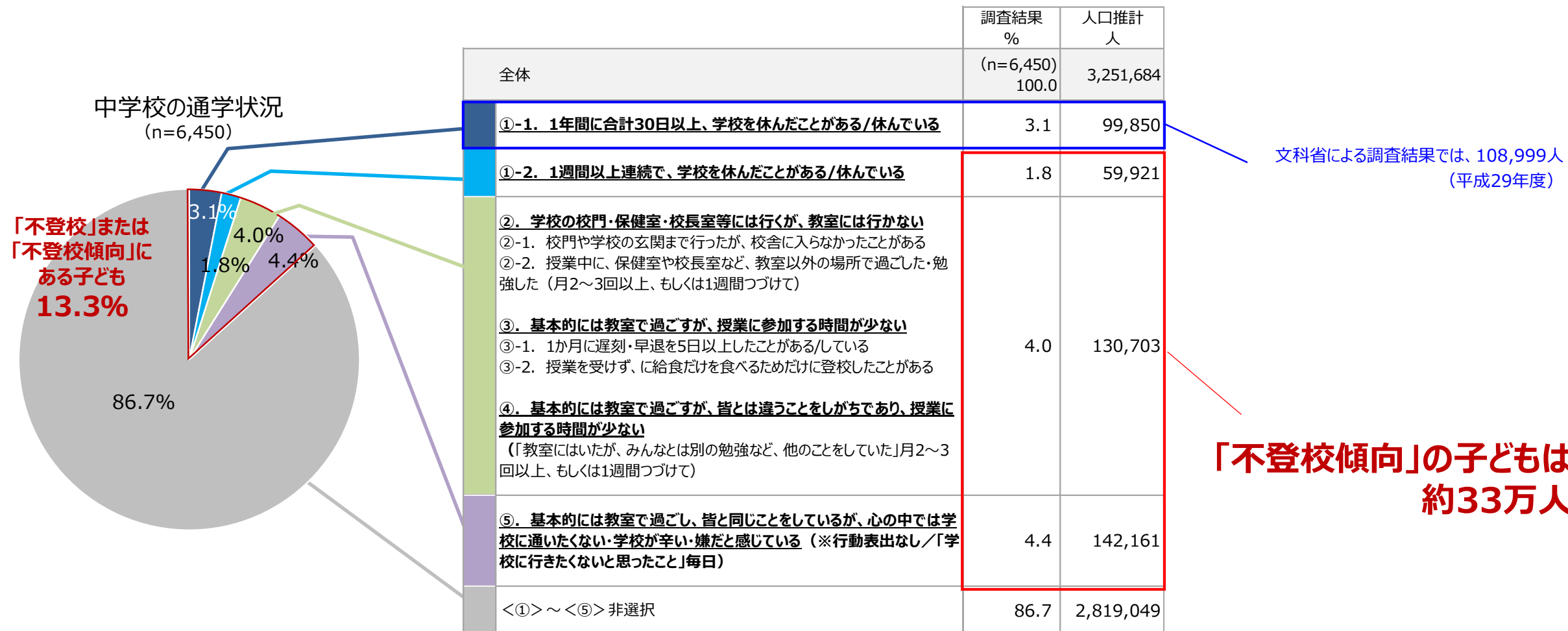


学校生活をめぐる子どもの特徴（タイプ）6群

①-1	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】年間30日以上（文科省定義内）学校に行っていない	30日以上 欠席	10万人
①-2		学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】1週間以上連続（文科省定義外）など一定程度学校に行っていない	1週間以上 連続欠席	
②	教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない 【主な特徴】保健室登校、図書室登校、校長室登校、校門登校など 頻度：「月2～3回以上、もしくは1週間続けて」	学校内で 行動表出	33万人
③	部分登校	基本的には教室で過ごす、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】給食登校 遅刻や早退が多い。頻度：「1か月に5日以上」 1日に何度か、一時的に保健室などで過ごす		
④	仮面登校 A 授業不参加型	基本的には教室で過ごす、皆とは違うことをしがちであり、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】授業がつまらない、または授業内容とは別に追求したい・学びたいことがある 頻度：「月2～3回以上、または1週間続けて」		
⑤	仮面登校 B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている 【主な特徴】行動表出なし。頻度：「毎日」	学校内で 行動非表出	
⑥	登校	学校に馴染んでいる		

【現中学生に聞いた】「中学校生活」タイプ別ボリューム

- ・年間30日以上欠席した不登校の子ども以外に不登校傾向にある中学生は10.2%。推計すると約33万人。
- ・不登校または不登校傾向にある子どもは、全体で13.3%。推計すると約43万人。

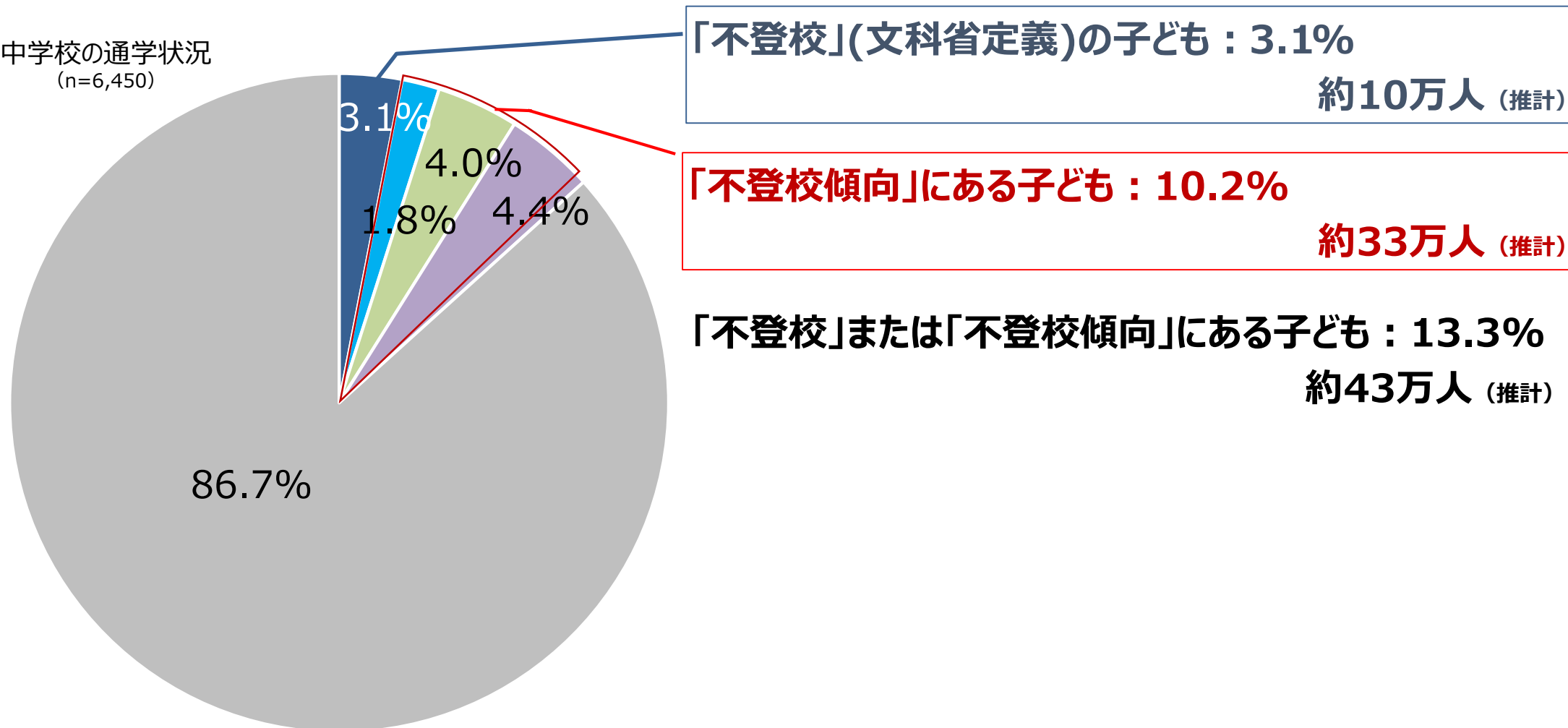


※推計精度を高めるため、小数点第十四位まで算出した%スコアで人口推計を行った。
平成30年 (速報) 学校基本調査のデータを用い、人数を推計。

【現中学生に聞いた】「中学校生活」タイプ別ボリューム

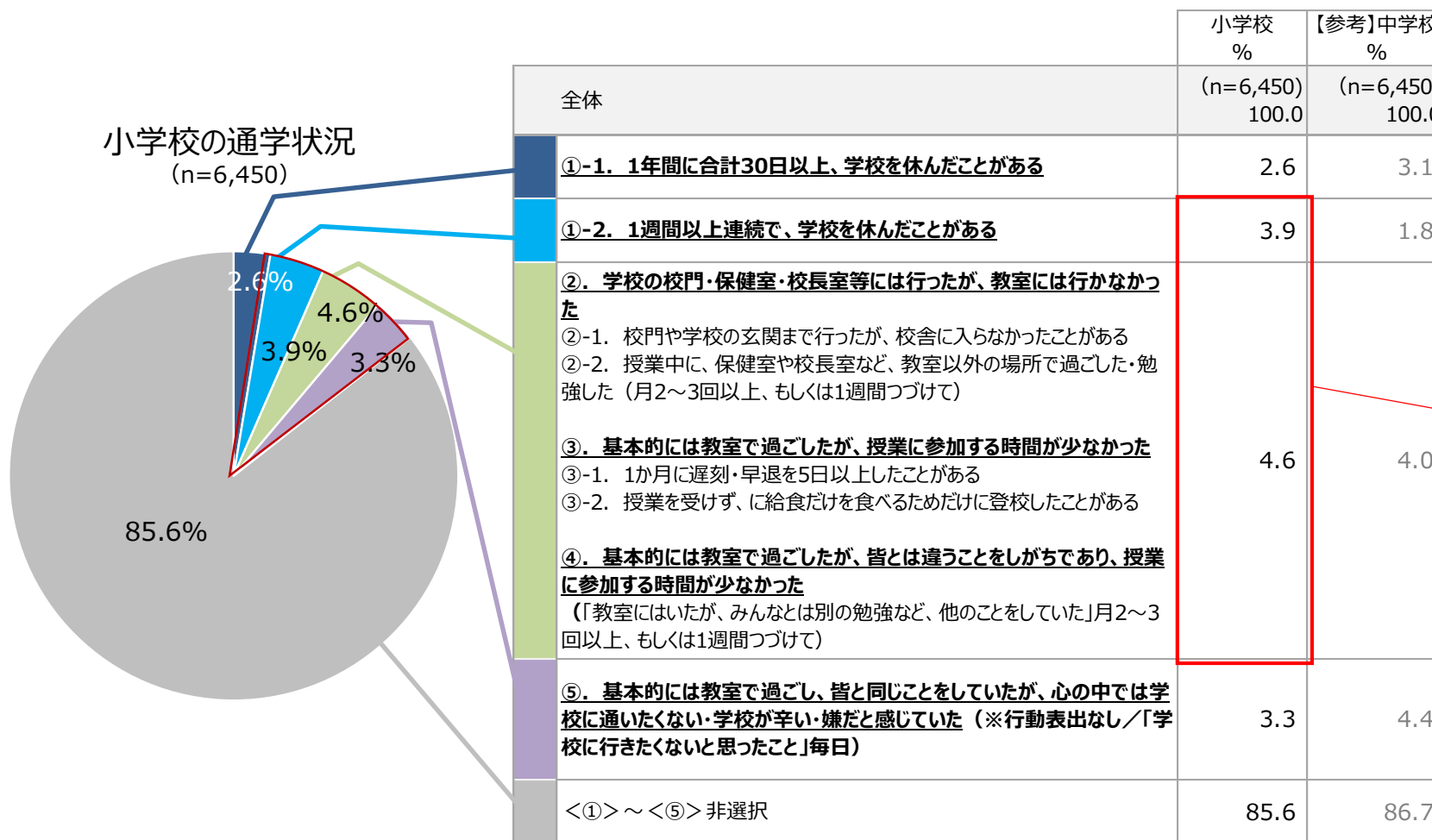
- ・年間30日以上欠席した不登校の子ども以外に不登校傾向にある中学生は10.2%。推計すると約33万人。
- ・不登校または不登校傾向にある子どもは、全体で13.3%。推計すると約43万人。

中学校の通学状況
(n=6,450)



【現中学生に聞いた】「小学校時代」タイプ別ボリューム

- ・小学校時代に1週間以上連続で休んだことがあると回答した現中学生は3.9%で、中学校時代と比較して2.1%多かった。
- ・②～④群（教室外登校、部分登校、仮面登校A）の不登校傾向にあったと思われる現中学生は4.6%で中学校時代と比較して0.6%多かった。
- ・小学校時代に不登校または不登校傾向にあったと思われる現中学生は合計で14.4%だった。

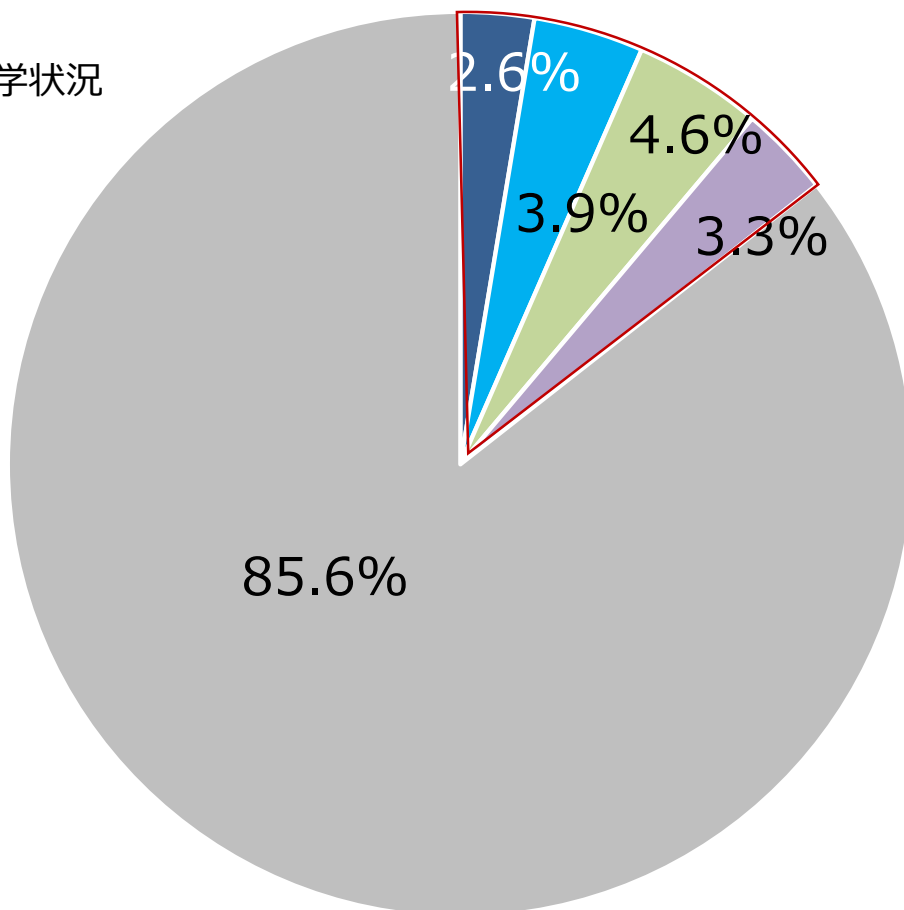


中学校時代よりも「不登校傾向」の割合が高い

【現中学生に聞いた】「小学校時代」タイプ別ボリューム

- ・ 小学校時代に不登校または不登校傾向にあったと思われる現中学生は14.4%だった。
- ・ 小学校時代に1週間以上休んだことがあると回答した現中学生は3.9%で、中学校時代と比較して2.1%多かった。
- ・ ②～④群（教室外登校、部分登校、仮面登校A）の不登校傾向にあったと思われる現中学生は4.6%で中学校時代と比較して0.6%多かった。

小学校時代の通学状況
(n=6,450)



「不登校」または「不登校傾向」にあった子ども：
14.4%

【現中学生に聞いた】中学校に行きたくない理由

・「疲れる」「朝、起きられない」などの身体的症状以外の要因では、全ての群で学業に関する理由がみられた。

※26項目中

＜中学校に行きたくない理由TOP10＞

赤字は「①～⑤非該当」と比べて20pt以上高い項目

	⑥_①～⑤非該当	①-1_1年間に 合計30日以上、 学校を休んだことがある/休ん でいる	①-2_1週間以上連続で、学 校を休んだことがある/休んで いる	②～④いずれか選択	⑤基本的には教室で 過ごし皆と同じことをしてい るが、心の中では学校に 通いたくない・学校が 辛い・嫌だと感じている
1位	疲れる (25.7)	朝、起きられない (59.5)	疲れる (38.2)	疲れる (44.0)	疲れる (48.7)
2位	朝、起きられない (19.2)	疲れる (58.2)	朝、起きられない (32.6)	朝、起きられない (35.6)	朝、起きられない (32.2)
3位	テストを受けたくない (16.0)	学校に行こうとすると、体調 が悪くなる (52.9)	自分でもよくわからない (31.0)	授業がよくわからない・ついて いけない (33.3)	学校に行く意味がわからない (31.9)
4位	自分でもよくわからない (15.0)	授業がよくわからない・ついて いけない (49.9)	友達とうまくいかない (30.1)	友達とうまくいかない (28.5)	学校は居心地が悪い (28.4)
5位	小学校の時と比べて、良い成 績が取れない (13.0)	学校は居心地が悪い (46.1)	授業がよくわからない・ついてい けない (29.2)	小学校の時と比べて、良い成 績が取れない (27.1)	テストを受けたくない (28.2)
6位	部活がハード (11.8)	友達とうまくいかない (46.1)	小学校の時と比べて、良い成績が取 れない (28.9)	テストを受けたくない (27.0)	小学校の時と比べて、良い成績が取 れない (27.8)
7位	授業がよくわからない・ついてい けない (11.6)	自分でもよくわからない (44.0)	学校に行こうとすると、体調が悪く なる (28.1)	先生とうまくいかない/頼れない (26.1)	授業がよくわからない・ついてい けない (27.3)
8位	友達とうまくいかない (10.1)	学校に行く意味がわからない (42.9)	学校は居心地が悪い (24.5)	学校は居心地が悪い (25.9)	先生とうまくいかない/頼れない (26.1)
9位	校則など学校の決まりが嫌だ (7.1)	先生とうまくいかない/頼れない (38.0)	先生とうまくいかない/頼れない (23.4)	校則など学校の決まりが嫌だ (22.5)	小学校の時と比べて、つまらない (25.0)
10位	小学校の時と比べて、つまらない (6.7)	小学校の時と比べて、良い成績が 取れない (33.9)	テストを受けたくない (23.2)	小学校の時と比べて、つまらない (21.8)	友達とうまくいかない (24.1)

(%)

【参考資料】不登校の要因_中学校（平成29年度文部科学省調査）

①【国公立】中学校

本人に係る要因 (分類)	学校、家庭に係る要因 (区分)	分類別 生徒数	学校に係る状況							家庭に係る 状況	左記に該当なし	
			いじめ	関わりを めぐる 問題	教職員との 関係を めぐる 問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動 等への不適応	学校のきまり等 をめぐる 問題			進級時、 転編入学 の不 適応
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		19,332	362	13,758	1,093	2,083	513	957	314	1,177	2,750	603
		—	1.9%	71.2%	5.7%	10.8%	2.7%	5.0%	1.6%	6.1%	14.2%	3.1%
		17.7%	77.5%	44.7%	45.0%	8.8%	9.7%	32.3%	8.3%	15.4%	8.2%	3.5%
「あそび・非行」の傾向がある。		5,383	2	551	147	1,387	200	67	1,688	152	2,319	581
		—	0.0%	10.2%	2.7%	25.8%	3.7%	1.2%	31.4%	2.8%	43.1%	10.8%
		4.9%	0.4%	1.8%	6.0%	5.8%	3.8%	2.3%	44.7%	2.0%	6.9%	3.4%
「無気力」の傾向がある。		33,317	12	4,259	389	10,487	1,536	696	978	1,910	12,781	5,397
		—	0.0%	12.8%	1.2%	31.5%	4.6%	2.1%	2.9%	5.7%	38.4%	16.2%
		30.6%	2.6%	13.8%	16.0%	44.2%	28.9%	23.5%	25.9%	25.0%	38.1%	31.4%
「不安」の傾向がある。		34,999	79	10,732	617	8,133	2,628	1,026	511	3,491	9,012	5,261
		—	0.2%	30.7%	1.8%	23.2%	7.5%	2.9%	1.5%	10.0%	25.7%	15.0%
		32.1%	16.9%	34.9%	25.4%	34.3%	49.5%	34.6%	13.5%	45.7%	26.8%	30.6%
「その他」		15,968	12	1,459	185	1,648	434	221	282	901	6,712	5,344
		—	0.1%	9.1%	1.2%	10.3%	2.7%	1.4%	1.8%	5.6%	42.0%	33.5%
		14.6%	2.6%	4.7%	7.6%	6.9%	8.2%	7.4%	7.5%	11.8%	20.0%	31.1%
計		108,999	467	30,759	2,431	23,738	5,311	2,967	3,773	7,631	33,574	17,186
		100.0%	0.4%	28.2%	2.2%	21.8%	4.9%	2.7%	3.5%	7.0%	30.8%	15.8%

(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校、家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における分類別児童生徒数に対する割合。下段は、各区分における「学校、家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

※平成29年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

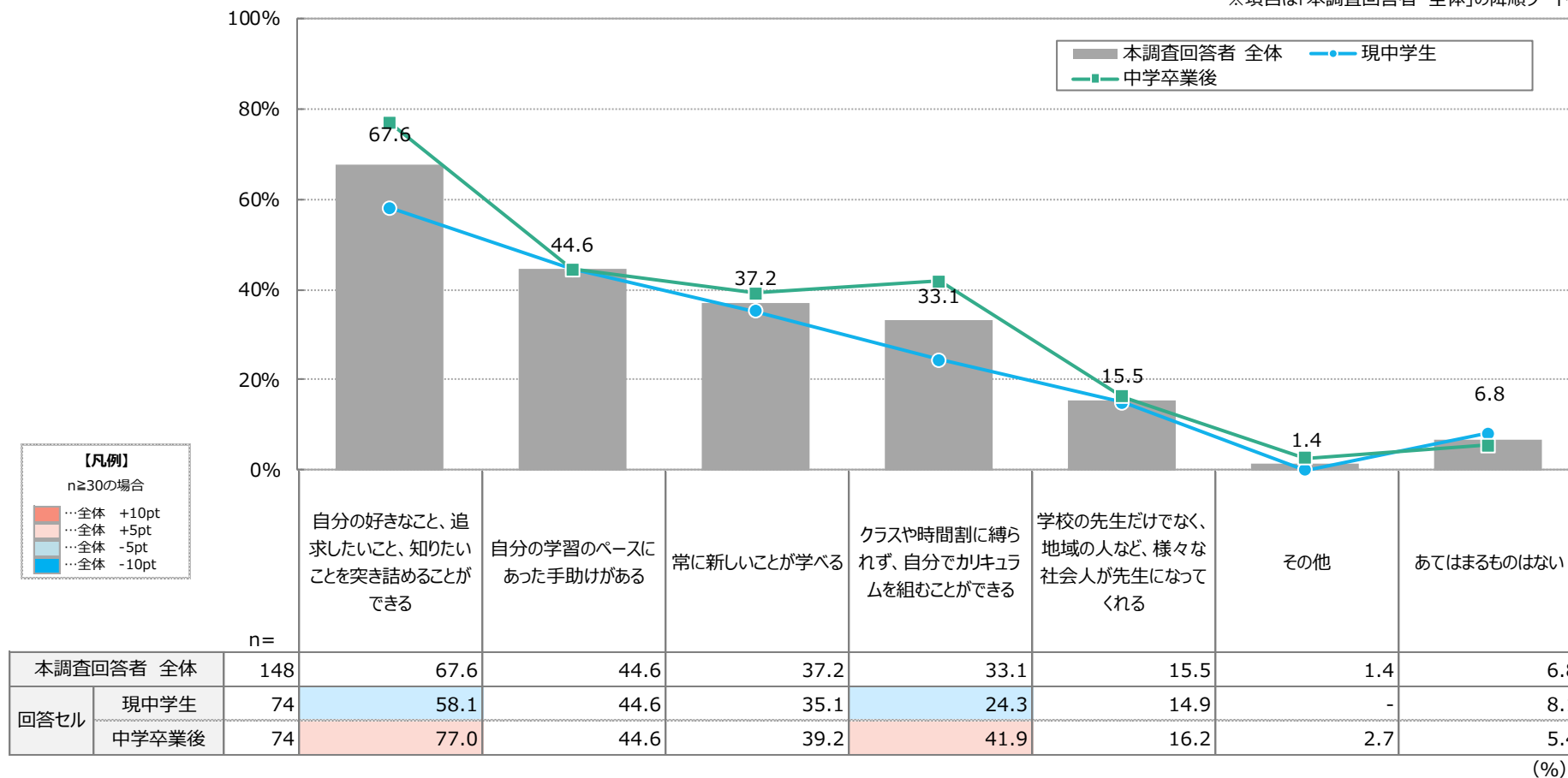
【不登校または不登校傾向にある現中学生と卒業生(中学卒業後～22歳)に聞いた】

学びたいと思える場所

- ・ 「自分の好きなことを突き詰めることができる」環境が、学びたいと思える場所としてトップ。
- ・ 回答セルごとにみると、「自分の好きなこと、追求したいこと、知りたいことを突き詰めることができる」「クラスや時間割に縛られず、自分でカリキュラムを組みることができる」において、現中学生より卒業生（中学卒業後～22歳）のほうがスコアが高い。

Q2.あなたはどのような場所だったら学びたいと思いますか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）

※項目は「本調査回答者 全体」の降順ソート



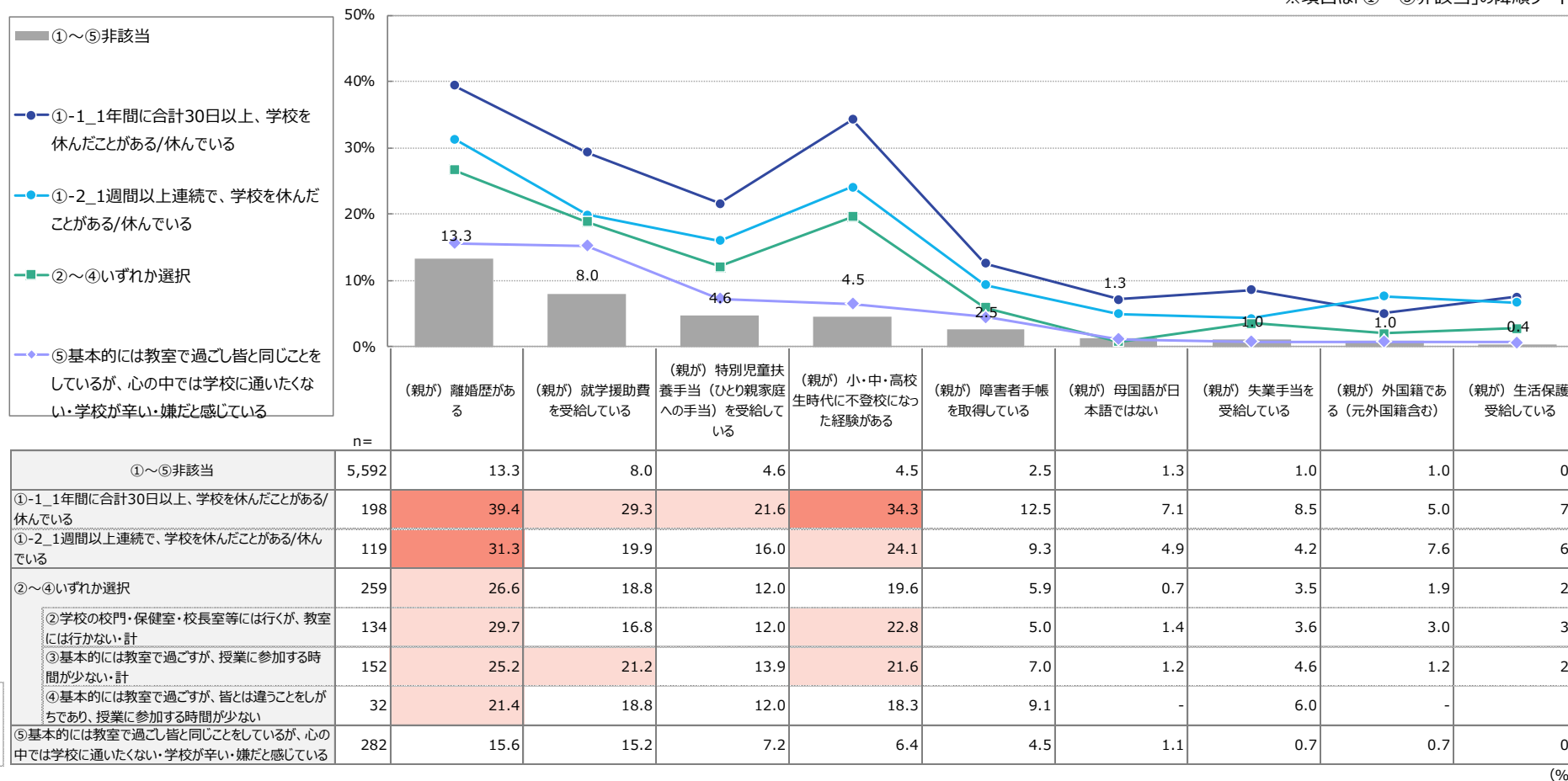
(%)

【参考資料（事前調査）】親回答による「親・家庭」のステータス

- ・「離婚歴あり」と「親自身も不登校経験あり」は不登校または不登校傾向にある子どもの親に多くみられる。
- ・「就学援助費を受給している」「特別児童扶養手当（ひとり親家庭への手当）を受給している」といった項目も①-1（30日以上欠席）を中心に比較的スコアが高め。

PSQ1.あなたご自身のこと、あるいは配偶者のこととして、あてはまるものをお答えください。（「1.あてはまる」一覧）

※項目は「①～⑤非該当」の降順ソート



【凡例】
n=30の場合
40%以上
30%以上
20%以上

(%)

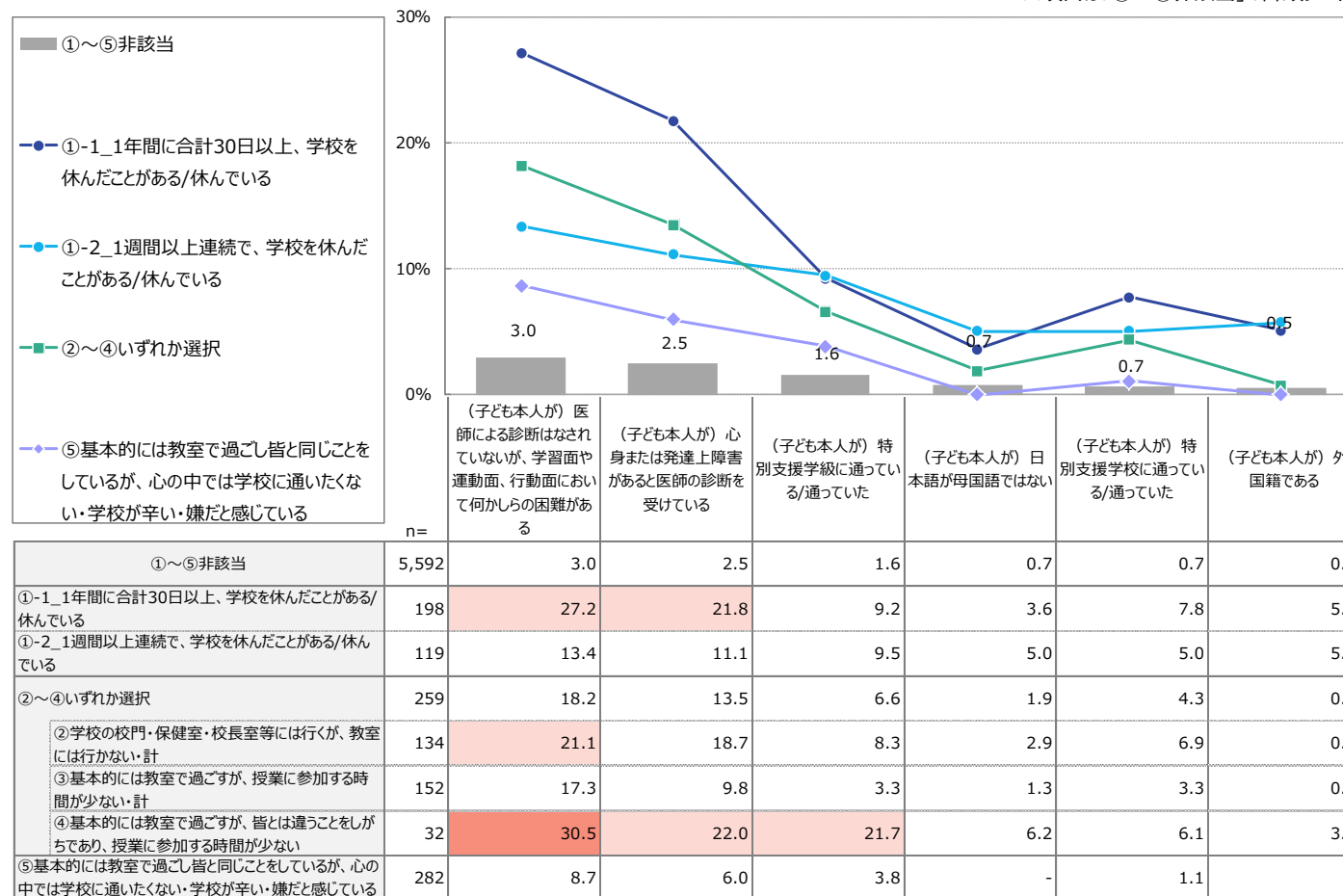
【参考資料（事前調査）】親回答による「子ども」のステータス

・不登校または不登校傾向にある子どもの親は「（自分の子どもは）学習面や運動面、行動面において何かしら困難がある」と思っている比率が高い。「心身・発達上に障害があると診断されている」とする親も多め。

・特に④（仮面登校A：授業不参加型）は「医師による診断はなされていないが、学習面や運動面、行動面において何かしら困難がある」と回答している親が3割とスコアが高い。

PSQ5.アンケートにお答えいただくお子様について、あてはまるものをお答えください。（「1.あてはまる」一覧）

※項目は「①～⑤非該当」の降順ソート



【凡例】
n≥30の場合
40%以上
30%以上
20%以上

(%)

- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は、全中学生約325万人の10.2%にあたる約33万人で、文部科学省が調査した不登校中学生の数の約3倍。約10人に1人が不登校傾向。

【6頁：本調査】

- 中学校に行きたくない理由について、身体的症状以外の要因では「授業がよくわからない」「良い成績がとれない」「テストを受けたくない」など、学習面での理由がみられた。

【10頁：本調査】

- 学びたいと思う環境は、「自分の好きなことを突き詰めることができる」場所、「自分の学習のペースにあった手助けがある」場所、「常に新しいことが学べる」場所など。

【12頁：追跡調査】